

# 豊かな人間性、 郷土を愛する心を育む村づくり



子どもたちが健やかに育ち  
生涯にわたって学ぶ環境の整った  
村を目指します

## 近

年の少子高齢化や核家族化、女性の社会進出や近所付き合いの希薄化などにより、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。本村では次世代を担う子どもたちが個性や能力を伸ばし、思いやりの心や郷土愛を育み、心身ともに健やかに成長できるように学校教育を充実させるとともに、学校・家庭・地域が連携を深めることで青少年の健全育成に努めます。

また、生涯学習では、公民館やたまかわ文化体育館を拠点に全ての住民に対して学ぶ機会とその成果を発表する場を提供するとともに、サークル活動の支援や文化イベントの開催などにも力を入れていきます。スポーツ活動では、たまかわ元気スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援するとともに、たまかわ文化体育館や村民グラウンド、学校の体育施設などを活用したスポーツ振興を進めます。

さらに、本村の歴史や伝統文化を保護・継承していく活動にも力を入れ、子供たちの郷土愛を育み、人々の絆を深めるための地域づくりに活かしていきます。



バスケットボール



ソフトボール



英語教育

## 村民参加の村づくり

子どもからお年寄りまで楽しめる  
「たまかわ元気スポーツクラブ」

### 「ラージボール卓球」のみなさん

平成15年に発足した「たまかわ元気スポーツクラブ」は、村民の健康維持・増進、交流や親睦、地域の絆づくりなどを目的に、地域住民が主体的となって運営している村独自のスポーツクラブです。

現在、会員は子どもからお年寄りまで300人を超え、フラダンスやバドミントン、フットサルや3B体操など、年齢や目的に合わせてさまざまなスポーツを楽しんでいます。

中でもラージボール卓球は、週1回のペースで行われている人気クラブのひとつで、「ここに通い始めてから体調もいいし、休憩時間におしゃべりするのも楽しい。できるだけ介護保険を使わずに済むよう頑張ります」と元気いっぱいのおみなさんでした。



明治時代から100年以上続く  
川辺地区の伝統行事

### 川辺小学校の旗持ち登校

「旗持ち登校」は、川辺小学校の入学式の朝に毎年行われている伝統行事です。

始まりは明治9年とも、明治39年とも言われ定かではありませんが、子どもたちを楽しく登校させたいという思いと、新1年生を地域の人にお披露目する意味も兼ねて始まったようです。「現在は入学式の朝、タスキを掛けて旗を持った新1年生と全校生が川辺八幡神社を参拝してから登校する1日限りの行事に。でも、かつては方部ごとに旗を作り、全児童が歌を歌いながら旗持ち登校を1週間続けていたようです」と育成会のおみなさん。

残念ながら平成26年度で川辺小学校は閉校となりますが、この行事だけは残したいと地域の人たちは存続の方向で検討しています。



流しそうめん



魚のつかみ取り



小学校運動会

# 魅力的で活力に満ちた村づくり

地域資源や地域特性を活かした  
産業の振興で活気と魅力に  
満ちた村を目指します

## 産

業の振興は活力ある地域社会を築くための大切な要素であり、本村が持続的な発展を遂げていくためには欠かせない重要な課題です。基幹産業の農業においては、本村の地の利を活かした農畜産物のブランド化や特産品の開発、販売網の拡充をJAやこぶしの里などの関係機関と連携しながら推進していくとともに、環境にやさしい農業への転換や担い手の確保、経営の効率化を積極的に進めていきます。また、森林機能の維持・管理にも力を入れ、林業の振興に努めます。

商業においては、経営の安定化に向けた取り組みを支援するとともに、買い物弱者にも対応した地域密着型の新たな商業の仕組みづくりやICT（情報通信技術）を活用した地元物産の販売促進や販路拡大などを進め、商業・流通の活性化を目指します。

工業においては、地域の活性化や雇用対策が期待できる企業誘致や既存企業の経営改善、地場産業との連携強化などを進め、観光においても、本村の自然や歴史、文化などを活かした魅力ある観光地づくりに努めます。



キュウリ農家



トマト農家



玉川工業団地

## 村民参加の村づくり

さるなしジュースやワイン、ジャムなど  
村を代表する特産品に

### 「四辻サルナシ生産組合」のみなさん

中山間地に位置する四辻新田地区。かつては葉たばこの生産が盛んな地域でしたが、昭和の終わりから葉たばこの需要が激減。それに代わる作物を県や村と検討した結果、他にない特色あるもので、中山間地の四辻新田地区でも比較的、栽培しやすい作物として平成元年から導入したのがサルナシです。

「当初は苗木の雄と雌を見分けることもできず、試行錯誤の連続でした。でも、栽培技術の向上とともに村によるサルナシの特産品づくりが本格化。栽培農家も2軒から8軒に、年間生産量も1 t弱から10 tに増え、やっと軌道に乗ってきました」とみなさん。今後は安定数量を確保し、サルナシの知名度をアップさせることが目標です。

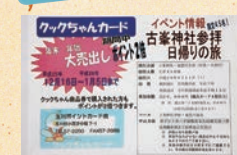


買い物に楽しみをプラスすることで  
地元商店会を活性化

### 「玉川ポイントカード会」のみなさん

平成17年に商店会の活性化を目的に発足したのが「玉川ポイントカード会」です。

現在、加盟店は小売店を中心に16店舗。このカードをレジで差し出すと、100円の買い物ごとに1ポイントが印字され、350ポイントたまると500円分の金券として使うことができます。「以前からシールを集めて金券に換えるサービスは行っていましたが、カードに切り替えたことで子どもや若いお客さんの利用が増えました。このカードで集めた金券は、商店会が企画した日帰り旅行やゲートボール大会の参加費に充てることもでき、それを目標にためている方もいます。今後は加盟店を増やし、買い物にプラスαの楽しみがある商店会にしたいです」とみなさん。



玉川夏まつり



盆踊り



さるなし